「船内作業で求められる安全対策」

出光タンカー（株）
三等機関士　　森田　一誠

私は今年の２月から社会人として初めて VLCC に乗船し、三等機関士として働いています。覚えるべきことはたくさんありますが、この短い期間でも安全について様々なことを考えさせられました。
陸上でも船上でも安全は何よりも重要視されるべきもので、その大切さは同等の物ですが、自分が思うに陸上と海上では安全を語る上で大きく違う部分が３つ存在します。

１つ目に船上は陸上と大きく違い、万が一怪我や病気になった際に医療的支援を受けるのが非常に難しいという点です。陸上では大きな怪我や病気になってもすぐに救急車が駆けつけ、薬や医療設備が充実している病院で医者による治療が迅速に行われます。しかしながら船の場合はこうはいきません。怪我や病気になってしまった場合、船内で応急的な治療を行うことになります。必要最低限の薬や救急設備はありますが、十分な治療するための設備はなく医者もいません。そのため場所によって対応が異なるとは思いますが、緊急を要する事態の場合、最寄りの陸地からヘリコプターや船を呼び患者を輸送することになります。太平洋を横断するような船舶ならば、陸上に移送を行うことすら難しくなってきます。いずれにせよ船で大きな事故や病気が発生した際に、最善の治療を行うまでには非常に大きな時間がかかります。

2 つ目に船上では環境による変化が非常に大きいことが挙げられます。陸上では地震でも起きない限りは揺れるようなことはありません。しかし船上では多かれ少なかれ揺れは常に起こり、ひどい時にはまっすぐ歩くのも難しいような状況が発生します。作業で整備を行った部品や工具が動揺によって転がるようなこともあります。高所作業を行っている際に急な動揺が起これば転落の危険なども出てきます。これも陸上とは大きく違う点の一つです。

3 つ目に何事も自己解決しなければならないということが挙げられます。1 つ目にも書きましたが船には医者がいないので怪我や病気といった事態が発生すれば、船側で対処を行っていく必要があります。これは怪我や病気だけではなく、例えば火事が発生しても消防士に任せるわけにはいきません。自分たちで火事に立ち向かっていく必要があります。これに限らずあらゆるトラブルに対して船では常に自己解決を図ることが求められてきます。

以上３つの点から船内での作業では陸上で行う同等の作業よりも安全対策により一層の工夫や、注意が求められてきます。

これら陸上よりも困難な点に対して自分たちはどう向き合っていく必要があるのか、

私なりの考えを述べさせていただきます

まず大事なのは安全第一を常に心がけることです。これは当たり前のことになりますが実行していくのはとても難しいことです。例えば階段を使用して物を運ぶといった単純な作業を行うとします。私も経験があるのですが、このような場合、作業者は効率よく作業を行おうと一度に運ぶ量を多くしてしまいがちです。その結果運悪く階段でバランスを崩し、怪我をしてしまうこともあるかもしれません。これは安全第一とはいえず、作業効率優先になっています。仕事を効率よく終わらせることも大事なことですが、そのために安全が疎かになってしまっては意味がありません。誰もが頭では理解していることですが、これを何時いかなるときも実行していくのはとても難しいことです。

病気に対しては普段の健康管理が重要になってきます。船での生活は運動不足に陥りやすく、ストレスなどから間食や飲酒、喫煙の量が増えていくこともあります。また家族もいないことからそれを咎める人間がいないため、本人は気づかず不健康な生活を続けてしまうこともありがちです。船では自分の代わりの人間はいません。さらに新たな人間もすぐには来ません。そのため健康状態を害し休養を取ることや、下船をすることになれば自分の仕事を自分以外の誰かに押し付けることになります。最低限自分の健康に関しては留意し、他人に迷惑をかけないように努めていくことが重要です。

最後にどんな仕事に対しても十分な緊張感を持って作業を行っていくことが大事であると感じています。仕事に慣れてくると、ついつい人は目の前の作業を簡単なものだと錯覚し、緊張感がないまま作業をこなしてしまいます。しかし船での作業は環境の変化が激しく何が起こるかわかりません。いつも平気だからこれで大丈夫だろうと慢心し、整備を行った部品をロープ等で固定していないときに限り、激しい動揺で部品が動き、人に当たって怪我をするケースもあるかもしれません。経験を積むことはとても大事ですが、慣れで作業をするのではなく。経験を積んだ作業に対しても初めての心構えで臨むことが大事です。

船内は上記のとおり困難なことが多いです。しかし魅力的な部分が多い仕事でもあります。まだまだ船員としては未熟ですが、これからも安全第一を心がけ立派に成熟できるよう精一杯仕事に臨んでいきます。